

年齢別妊娠確率

《年齢別》妊娠率・受精率・着床率・流産率・不妊治療成功率

自然妊娠での妊娠率や受精する確率、着床する確率、流産の確率、ダウン症児の確率、染色体異常の確率、人工授精の成功率、体外受精の成功率、ARTの成功率などを年代別にまとめてみました。

- 1 《年齢別》妊娠率・受精率・着床率・流産率・不妊治療成功率
 - 1.1 1周期あたりに自然妊娠する確率は約20%
 - 1.2 年齢別にみる自然妊娠率
 - 1.3 精子と卵子の受精確率
 - 1.4 受精卵の着床確率
 - 1.5 年齢別流産発生率
 - 1.6 年齢別ダウン症児の発生率
 - 1.7 年齢別染色体異常の発生率
 - 1.8 不妊原因の男女の割合
 - 1.9 人工受精の妊娠率 (AIH)
 - 1.10 体外受精の年齢別妊娠率 2010年度 (IVF)
 - 1.11 年齢別 ART (体外受精・顕微授精・凍結胚移植) 成績 2011
 - 1.12 みんなが読んでいる妊娠したい人向け《悩み別記事》

1周期あたりに自然妊娠する確率は約20%

排卵日近くに子作りを開始して半年で約80%、1年で約90%が妊娠したというドイツの研究があります。

これは、1周期ごとの妊娠率を累積した累積妊娠率です。

この計算で考えると1周期あたりの妊娠する確率は約20%となります。

しかし、女性の年齢が上がると妊娠するまでにかかる時間は長くなってしまいます。

これは卵子の老化が原因と言われています。

質の良い卵子が育たない、育って排卵したとしても受精しない、受精したとしても分割～着床しないというのも妊娠しない数字に含まれています。

年齢別にみる自然妊娠率

30代妊娠確率、40代妊娠確率をみると、どんどん確率が低下しています。

25歳 : 25%~30%

30歳 : 25%~30%

35歳 : 18%

40歳 : 5%

45歳 : 1%

上記からわかるように、女性の妊孕力（にんようりょく）は30歳位から徐々に低下し、37歳からは低下スピードがアップします。

そして44歳以降では妊娠する可能性は1%とほぼ無くなってしまいます。

原因は主に卵子の老化によるもの。そして卵巣内の卵母細胞数が37歳から42歳にかけて急激なスピードで減少し、卵子の数は10分の1になります。

精子と卵子の受精確率

排卵日近辺に性交をすれば80%の確率で受精します。

受精卵の着床確率

受精が成功しても着床する確率はその半分以下となります。

そして、着床後妊娠継続する確率は10~20%となります。

年齢別流産発生率

25歳	: 10%
30歳	: 10%
35歳	: 25%
40歳	: 40%
45歳	: 50%

卵子の老化は、流産率とも密接に関係しています。
加齢・老化による卵子の染色体異常や卵子そのものの生命力の低下が原因です。
(その他には精子の異常や遺伝子因子要因があります)

年齢別ダウン症児の発生率

20歳	: 1/1667
25歳	: 1/1250
30歳	: 1/952
35歳	: 1/385
40歳	: 1/106
45歳	: 1/30

年齢別染色体異常の発生率

20歳	: 1/526
25歳	: 1/476
30歳	: 1/384
35歳	: 1/192
40歳	: 1/66
45歳	: 1/21

不妊原因の男女の割合

男性のみ	: 24%
女性のみ	: 41%
男女両方	: 24%
原因不明	: 11%

●男性の不妊原因

造精機能障害／精索静脈瘤／逆行性射精／勃起障害／無精子症／加齢／その他

●女性の不妊原因

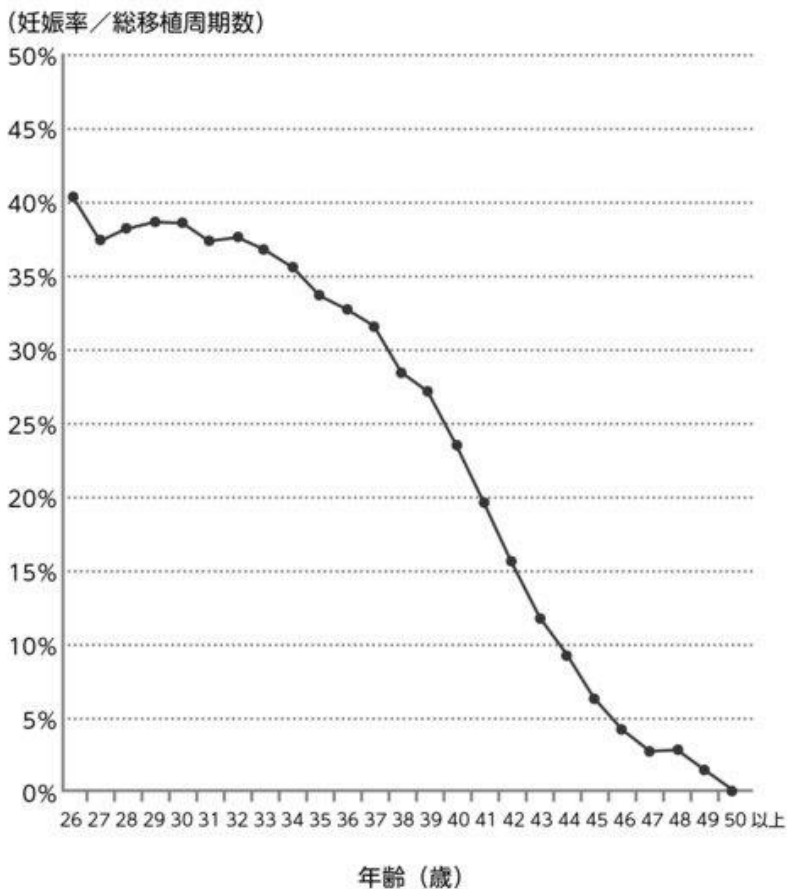
排卵障害／卵管閉塞／卵管狭窄／子宮筋腫／子宮内膜症／多嚢胞性卵巣症候群／加齢／その他

人工受精の妊娠率 (AIH)

人工授精の成功率は5%から10%とされています。
累積妊娠率で人工授精の妊娠率を検討すると、およそ5~6回くらいで妊娠率は上がらなくなります。
6回の累積妊娠率はおおよそ20~30%くらい言われ、体外受精一回あたりの妊娠率とほぼ同じか若干低い程度となります。

体外受精の年齢別妊娠率 2010 年度 (IVF)

体外受精の年齢別妊娠率 (2010 年度)



出所：日本産科婦人科学会「2010 年生殖補助医療データブック」

25 歳以上で 40%をきり、32 歳くらいまでは 37~38%の確率を出しています。

しかし 35 歳をこえ、30 代後半から徐々に妊娠率は低下し、40 歳で 20%をきり 43 歳で 10%、44 歳で 10%をきります。

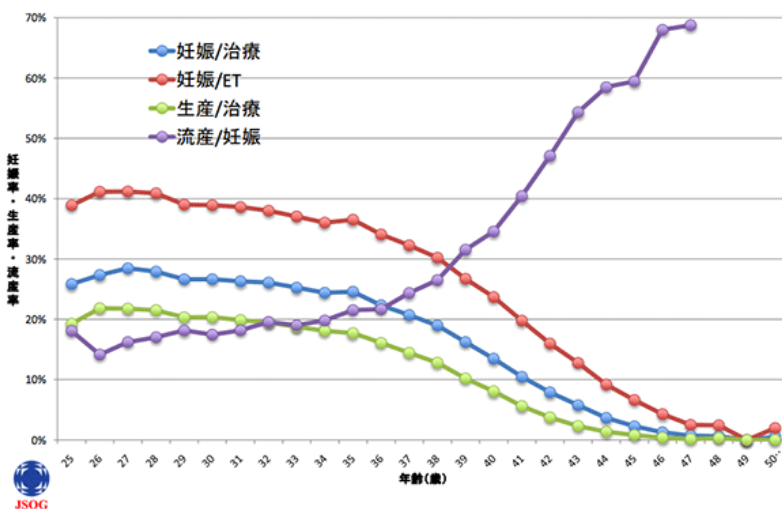
そして 45 歳以上は 5%以下となり限りなく 0 に近づきます。

35 歳を過ぎたあたりから急激に妊娠率が低下しているのがわかります。あくまでもこれは妊娠率で、出産までいたった数字ではないことを理解してください。

年齢別 ART (体外受精・顕微授精・凍結胚移植) 成績 2011

(日本産科婦人科学会調べ)

ART妊娠率・生産率・流産率 2011



治療成績が年齢を重ねるごとに下がってくるのはもちろんですが、緑色の生産という所を見てください。

これは赤ちゃんを出産出来るのかという生産率の数字です。37 歳くらいから徐々に低下していきます。

こうして考えると遅くても 35 歳位迄の妊娠が望ましい事と、不妊治療を受けた子作りをするのなら 42~43 歳が数値的に見てもリミットかもしれません。